

●生ワクチンと不活化ワクチン

**生ワクチン** 生きた病原体の毒性を弱めたもので、その病気にかかった状態に近い免疫をつくることができます。発熱や発疹など、その病気にかかったときの症状が軽く出ることがあります。  
接種してから十分な免疫ができるまで約 1 ヶ月かかります。

**不活化ワクチン** 細菌やウイルスを殺し免疫をつくるのに必要な成分を取り出してつくったものです。この場合、体内で細菌やウイルスは増殖しないため、免疫をつけるためにはそれぞれのワクチンの性質に応じて一定の間隔で数回接種することが必要になります。

●異なるワクチンとの接種間隔



※上記以外の予防接種については、異なるワクチンとの接種間隔に関する制限はありません。  
(同一種類のワクチンを接種する場合はそれぞれのワクチンに定められた間隔があります。)